

第 255 回 京都市智積院の興教大師像と廬山寺の紫式部像

筆者：林 久治（記載：2023 年 11 月 13 日）

（1）前書き

私（筆者の林）は [Random Walks（乱歩）](#) という題名で [偏屈老人（林久治）の気促な紀行文](#) のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介を記載することに心掛ける所存です。

一方、私は日本の銅像探偵団 ([1\) のサイト/](#)) の銅像探索に参加している。私は珍しい銅像を探して、探偵団の団長さんに「ギャフン！」と仰っていただけることを目標としている。ここで「珍しい」とは、「①見つけ難い場所に隠れている有名人の銅像。②市井で頑張っただけで人生を過ごしたが、有名人ではない人物の銅像」という意味である。私は自宅が東京にあり、孫達が大阪にいますので、主として東京近郊と近畿地方で銅像探索を行っている。最近、私はネット記事を丹念に調査し、そのような「スクープ銅像」の候補を多数見つけている。私の銅像探索記の全ては、[2\) のサイト/f](#) から閲覧出来ます。

私は 10 月 28 日から 11 月 6 日まで大阪に滞在していた。その間、天候は良く暖かかったので、私は孫達とよく遊ぶことが出来た。また、予てから狙っていた銅像が近畿地方に沢山あったので、それらの幾つかを探索することが出来た。私は 10 月 30 日に、箕面市の北原怜子像を探索し、その探索記を [253 回の記事/f](#) に記載した。また、10 月 31 日には京都市で銅像探索を行った。その内、南区の長谷川繁雄・靖子夫妻像と松下幸之助像の探索記を [前回の記事/f](#) に記載した。

私は本年の 5 月、東京で興教大師覚鑿上人像を 3 基探索し、それらの探索記を [235 回の記事/f](#) と [235b 回の記事/f](#) に記載した。その際、私は「興教大師像は、弘法大師像や日蓮上人像に比べて格段に少ないが、日本各地に興教大師像が結構存在している」ことを知った。[3\) のサイト/](#)によれば、京都市東山区の智積院に興教大師像があり、本像は [1\) のサイト/](#)に収録されていない。また、智積院には稚児大師像（本サイトに未収録）と玄宥僧正像（本サイトに収録済）があるので、これらもついでに探索しようと思った次第である。

また私は、上京区の廬山寺には金色の紫式部像があり ([4\) のサイト/a](#))、本像は [1\) のサイト/](#)に収録されていないことを知っていた。本サイトには、京都文化博物館の紫式部像が収録されている。しかし、文化博物館の紫式部像は本サイトの対象外の乾漆像である ([5\) のサイト/1](#))。廬山寺の紫式部像の材質は不明であるので、それを確かめる必要がある。そこで、私は長谷川夫妻像と松下像の探索の後、智積院と廬山寺に行った次第である。本稿はこれらの探索記である。なお、本稿では私の意見などを **青文字** で、資料の内容などを **緑文字** で記載する。

（2）京都市東山区の智積院

京都駅から智積院へのバス路線を、次ページの図 1 上に示す。智積院に行くには、三十三間堂前を通るバスに乗り、「東山七条」のバス停で降りればよい。「京都駅前バスのりば案内マップ」を図 1 下に示す。それによれば、三十三間堂方向に行くバスは、「D のりば」から発車することが分かった。そこで、私は京都駅八条

口から京都駅前に廻り、「Dのりば」に行った。三十三間堂方向に行くバスは「D2のりば」から乗車するようであった。しかし、そこには、2列の行列があり、私はどちらに並べばよいか分からなかった。

そこで、私は一方の列の最後にいる若い女性に「三十三間堂に行くバスは、どこに並べばよいのですか？」と尋ねた。すると彼女は親切に「こちらの列は208路線で、あちらの列は206路線で、こちらのバスが先に出ます」と教えて下さった。京都では地下鉄があまり発達していないので、観光はもっぱらバスを利用するしかない。所が、京都市内のバス路線は複雑怪奇に入り組んでいるので、私は「それでは多くの外人観光客は困るのではないかと要らぬ心配をした。

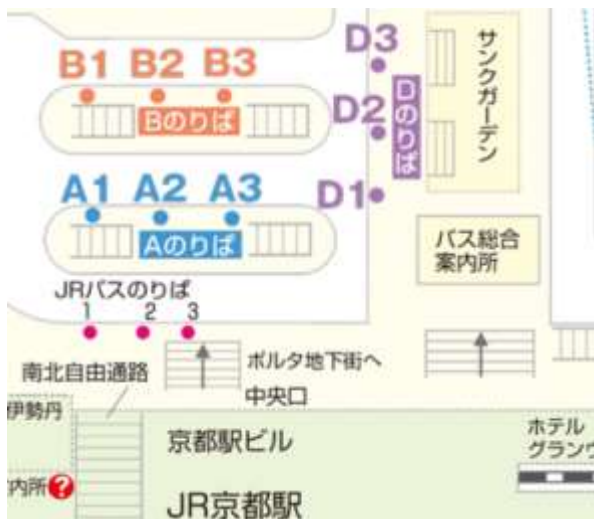


図1.
上：京都駅から智積院へのバス路線、本図は、[6\)](#)のサイト/fより借用。
下：京都駅前バスのりば案内マップ、本図は、[7\)](#)のサイト/1より借用。

私が彼女の後に並んだ列には可成りの人数がいたが、幸い座ることが出来、京都駅から約15分で「東山七条」のバス停に着いた。本バス停の真ん前に智積院があった。智積院の境内図を次ページの図2に示す。本院は多くの観光客が押しかける寺院ではないが、非常に広々とした綺麗な境内に、立派な伽藍が沢山点在していた。



図2. 智積院の境内図、本図は、[8\) のサイト/1](#)より借用。

智積院の紹介は、[3\) のサイト/](#)、[8\) のサイト/1](#)、[9\) のサイト/](#)、[10\) のサイト/1](#)などが優れている。それらによると、智積院の略歴は次の通りである。

①紀州根来山の学頭寺智積院は、平安時代末期の興教大師・覚鑿（こうぎょうだいし・かくばん、1095－1144）によって高野山に開かれた空海以来の真言密教を研究する教学道場に由来し、真言宗研究の学僧が集う一大寺院でした（この流れを新義真言宗と呼びます）。秀吉の根来攻めによって智積院は炎上。この時、学頭玄宥僧正（1525-1605）は、難を京都に避け、後に徳川家康の帰依を受けて1601年に豊国神社境内の坊舎と土地を与えられ、智積院を再興した。その後、祥雲禅寺を拝領し、現在に至っている。

②祥雲禅寺は、豊臣秀吉が長男鶴松（棄丸）の菩提を弔うために建立した寺で、当時は東山第一といわれた。収蔵庫にある豪華な襖絵は、長谷川等伯とその一門の筆といわれ、桃山時代の代表的壁画として、国宝に指定されている。張即之筆金剛経（国宝）、南画の祖といわれる王維の龍図（重要文化財）などの寺宝を有する。大書院の庭（智積院庭園、国名勝）は、利休好みの庭といわれ、築山と苑池からなる観賞式林泉で、京洛名園の一つに数えられている。境内金堂前には、中興の祖の玄宥僧正像がある。

（3）智積院の玄宥僧正像、稚児大師像、及び興教大師像

私は、智積院の総合受付から入場した（図2の赤い矢印）。まず、正面の金堂に行くとき、その前の参道（図2の①地点）に玄宥僧正座像があった。その写真を次ページの図3左に示す。本像背面には、制作者のサインがあった。その写真を図3右に示す。それには「2006年 倅通作」とあった。

[11\) のサイト/m](#)によれば、倅通の略歴は次の通りである。

久保田倅通 くぼた・よしみち、1938—）は長野県出身。藤野天光（北村西望の高弟）に師事。日展 評議員・日彫会 運営委員・千葉県美術会理事長。代表作品は海浜幕張駅前の「波の詩」、市川市里見公園の「水の詩」、千葉県警察学校の「信頼の絆」、東金・九十九里有料道路の今泉駐車場にある「千鳥と遊ぶ」など。



図3. 左：玄宥僧正座像、右：本像背面の制作者サイン。

本像は、[1\) のサイト/](#)に収録されているが、その詳細は記載されていない。以上の資料などにより、本像の概要は次の通りである。

玄宥僧正座像

設置場所：京都市東山区東瓦町 964 智積院金堂前

制作者：久保田倅通（くぼた・よしみち、1938—、長野県出身）

制作時期：2006 年

設置経緯：秀吉の根来攻めによって紀州根来山の学頭寺智積院は炎上。この時、学頭玄宥僧正（1525-1605）は、難を京都に避け、後に徳川家康の帰依を受けて 1601 年に豊国神社境内の坊舎と土地を与えられ、智積院を再興した。玄宥は智積院（真言宗智山派の総本山）の中興の祖と呼ばれている。

金堂を拝観した後、私はその横にある大師堂に行った。そこには、稚児大師像（図2の②地点）と弘法大師像（図2の③地点）があった。参詣対象の弘法大師像は全国で極めて多数存在するので、本稿では本像の紹介は省略する。稚児大師像も参詣対象の傾向が強い。しかし、[1\) のサイト/](#)では勢至丸（法然上人の幼名）の銅像は収録対象であるので、稚児大師像は紹介することとする。次ページの図4に、本像周辺の写真と本像の近接写真を示す。

（本文は、6 ページに続く。）



弘法大師亮千五百五十年御遠忌記念
昭和五十九年三月吉日建之
智山保育連合会

図4. 稚児大師像と台座の彫文

本像の制作者サインは無かった。以上の資料などにより、本像の概要は次の通りである。

稚児大師像

設置場所：京都市東山区東瓦町 964 智積院大師堂前

制作者：不明

建立時期：1984年3月

建立者：智山保育連合会

設置経緯：本像は、弘法大師（774-835）の1150年御遠忌記念で建立された。

玄宥像と稚児大師像を撮影して、私は本命の興教大師像を探して境内を歩き廻った。しかし、本像は見つからなかった。そこで、私は向こうから速足で歩いて来た一人の僧侶を呼び留めてかう尋ねた。

私「すみませんが、興教大師像はどこにありますか？」

僧侶「密厳堂にあります。今は未公開です。」

僧侶は素気なくかう云って、あたふたと立ち去ってしまった。彼は忙しかったかも知れないが、一般大衆にはもっと慈悲深く対応すべきではなかろうか。

以上のような経緯で、今回は興教大師像にお目にかかることが出来なかった。帰宅後に調べてみると、密厳堂は何年か毎に特別公開されているようだ。2022年1月の特別公開に、密厳堂を参拝した方の記事（[9\)のサイト/](#)）より、興教大師像の写真を拝借して、図5に示す。



図5.
智積院密厳堂前の興教大師像、
本図は、[9\)のサイト/](#)より借用。

(4) 廬山寺の紫式部像

私は智積院で銅像探索を行った後、徒歩で京阪電車の七條駅まで行き、そこから出町柳駅で下車した。出町柳駅から廬山寺（京都市上京区寺町通広小路上ル北之辺町397）までは、徒歩で約15分であった。その道順を図6の矢印で示す。



図6. 出町柳駅から廬山寺までの道順

次ページの図7上に廬山寺の山門を、図7下に「源氏物語執筆地」の掲示を示す。廬山寺のHP ([12](#) のサイト/) によれば、本寺の略歴は次の通りである。

廬山寺は、比叡山天台18世座主元三大師良源によって天慶年中（938年～947年）に船岡山の南に創建されました。1245年に法然の弟子である覚瑜が船岡山の南麓に再興、中国の廬山にならって蓮社を結び道俗貴賤が群集し、廬山天台講寺と号しました。室町時代に応仁の乱で焼失した後、1571年、織田信長の比叡山焼き討ちは正親町天皇の女房奉書により免れましたが、天正年間（1573～1593）に現在地に移転してまいりました。度々の火事のため、現在の御仏殿（通称本堂）と御黒戸（通称尊牌殿）は1794年、光格天皇が仙洞御所の一部を移築し、女院、閑院宮の御下賜でもって造営された。明治維新までは御黒戸四箇院

と云って、宮中の仏事を司る寺院が四ヶ寺ありその中の一つでありました。けれども、廃仏毀釈により宮中より天台宗にお預けになり、明治天皇の勅命により当山のみが復興され現在は天台圓淨宗として今日に至っております。



図7. 上：廬山寺の山門、下：「源氏物語執筆地」の掲示。

廬山寺の本堂玄関を次ページの図8上に、玄関内部に設置された紫式部像を図8下に示す。[12\) のサイト/](#)によれば、廬山寺と紫式部との関係は次の通りである。

日本人で唯一人「世界の五大偉人」に選出され、フランスのユネスコ本部に登録された世界最古の偉人並文豪紫式部は、「平安京東郊の中河の地」すなわち現在の廬山寺の境内（全域）に住んでおりました。それは紫式部の曾祖父、権中納言藤原兼輔（堤中納言）が建てた邸宅（堤第）であり、この邸宅で育ち、結婚生活を送り、一人娘の賢子を産み、西暦1031年に五十九歳ほどで死去したといわれております。紫式部は藤原香子と呼び、「源

氏物語」「紫式部日記」「紫式部集」などは、ほとんどこの地で執筆されたものであります。そのため、世界文学史上屈指の史跡、世界文学発祥の地とも言われております。この遺跡は考古学者角田文衛博士によって考証されたものであります。そして昭和四十年十一月、境内に紫式部邸宅跡を記念する顕彰碑が建てられました。また「源氏物語」中の「花散里の巻1」にでてくる屋敷はこのあたりであったろうといわれております。



図8.

上：廬山寺の本堂玄関、
下：玄関内部に設置され
た紫式部座像。





図9.
紫式部像の前に置かれた木札

図9に紫式部像の前に置かれた木札を示す。これより、本像の制作者は「[金井征之氏](#)」であることが分かる（制作時期の記載は無かった。）金井征之氏の経歴に関する記事はないが、以下のサイトより、彼の情報が少し得られた。

[13\) のサイト/8](#)：金井征之は彫刻家で僧侶。

[14\) のサイト/k](#)：株式会社アート大佛（創業：1985年7月）は、親子3代にわたり銅像からビルの壁面等あらゆる美術工芸品の立体造形お手がける会社である。越前大仏を作成した。中国に協力工場を持つ。

[15\) のサイト/9](#)：帝国データバンクによると、アルミ製鋳物製造のアート大佛（資本金・1千万円、本社・京都府綴喜郡宇治田原町岩山辻堂21-15、代表・金井征之氏）は2023年2月15日に京都地裁より破産手続き開始決定を受けた。負債額は2億円。

なお、[16\) のサイト/](#)によれば、本像の奉納者の福井正憲は以下のような方である。

寛政2年（1790年）、京都で創業した老舗茶舗・福寿園（京都府木津川市）は今年で創業228年を迎える。福井正憲会長（2018年当時82才）はその8代目。

[1\) のサイト/](#)には、京都文化博物館の紫式部像が収録されている。[5\) のサイト/1](#)は、この紫式部像を次のように説明している。

この紫式部（乾漆像）像は、社団法人現代教育研究協会（会長森藤吉）が創立20周年の記念事業として京都府に寄贈され、当館において公開している。作者は、京都教育大学名誉教授・日展評議員杉村尚氏である。

文化博物館の紫式部像は [1\) のサイト/](#)の対象外の乾漆像であった。廬山寺の紫式部像の材質を確かめるため、私はこっそりと像の衣を叩いてみた。すると、カンカンと金属音がした。以上の資料などにより、紫式部像の概要は次の通りである。

紫式部座像

設置場所：京都市上京区寺町通広小路上ル北之辺町 397 廬山寺本堂玄関

制作者：金井征之（株式会社アート大佛・代表）

建立時期：不明

奉納者：福井正憲（老舗茶舗・福寿園会長）・福井公子

設置経緯：廬山寺は、比叡山天台 18 世座主元三大師良源によって天慶年中（938 年～947 年）に船岡山の南に創建。天正年間（1573～1593）に現在地に移転。日本人で唯一人「世界の五大偉人」に選出され、フランスのユネスコ本部に登録された世界最古の偉人並文豪紫式部は、「平安京東郊の中河の地」すなわち現在の廬山寺の境内（全域）に住んでおりました。それは紫式部の曾祖父、権中納言藤原兼輔（堤中納言）が建てた邸宅（堤第）であり、この邸宅で育ち、結婚生活を送り、一人娘の賢子を産み、西暦 1031 年に五十九歳ほどで死去したといわれております。紫式部は藤原香子と呼び、「源氏物語」「紫式部日記」「紫式部集」などは、ほとんどこの地で執筆されたものであります。そのため、世界文学史上屈指の史跡、世界文学発祥の地とも言われております。この遺跡は考古学者角田文衛博士によって考証されたものであります。そして昭和四十年十一月、境内に紫式部邸宅跡を記念する顕彰碑が建てられました。また「源氏物語」中の「花散里の巻 1」にでてくる屋敷はこのあたりであったろうといわれております。

参考資料

- 1) のサイト：<https://douzou.guidebook.jp/>
- 2) のサイト：<http://masaniwa.web.fc2.com/Ranpo.pdf>
- 3) のサイト：
<https://hotokami.jp/area/kyoto/Hmptr/Hmptrty/Dypmm/3864/buildings/>
- 4) のサイト：
<https://blog.goo.ne.jp/kakitutei/e/5c513559525aaa547ff3772ae6e21eda>
- 5) のサイト：<http://burari2161.fc2web.com/murasakisikibu.html>
- 6) のサイト：
https://www.city.kyoto.lg.jp/kotsu/cmsfiles/contents/0000019/19770/web_2310_rosenzu_omote.pdf
- 7) のサイト：http://www.kyo-yado.com/bus_info/bus-stop.html
- 8) のサイト：
<http://tanakaiku.sakura.ne.jp/japan/kyotoeast/kyotoeast3/chishakuin/chishakuin.html>
- 9) のサイト：<https://www.kyoto-tabiya.com/2022/01/25/97143/>
- 10) のサイト：<https://gururinkansai.com/chishakuin.html>
- 11) のサイト：<http://kohkosai.com/syuzouhin/kaisetu/sikisi/kubota2.htm>
- 12) のサイト：<http://www7a.biglobe.ne.jp/~rozanji/>

- 13) のサイト : <https://page.auctions.yahoo.co.jp/jp/auction/h174130478>
- 14) のサイト : <https://biz-maps.com/item/PQ1pbbJ8Zk>
- 15) のサイト : <https://www.japanmetaldaily.com/articles/-/102419>
- 16) のサイト : <https://www.nikkei.com/article/DGXMZ029207170Q8A410C1AA2P00/>